

ブラジル大統領選は親米右派フラビオ氏と現職左派ルラ氏が接戦、決選投票へ

- 第1回投票はいずれの候補も単独過半数に到達せず
- 事前の世論調査通りフラビオ氏とルラ氏の決選投票へ
- 決選投票は支持率拮抗で予断を許さない状況

■ ブラジル大統領選は決選投票へ

4日に行われたブラジル大統領選の第1回投票は、12人の候補が乱立する中、いずれも過半数の票を獲得できず(図1)。開票率99.93%時点で右派のフラビオ・ボルソナロ上院議員(ボルソナロ前大統領の長男)が得票率47.05%、左派のルラ現大統領が45.14%となり、上位2候補による決選投票が10月25日に行われることが決定しました。

ルラ大統領は、選挙戦を前に個人所得税の課税控除額引上げや債務再編支援プログラムなどの家計支援策を実施したものの、支持拡大につながっていません。支持基盤である低所得層からの信頼は厚いものの、中高所得者層の支持は限定的な模様。高水準の債務負担や高金利による家計圧迫、治安悪化への懸念などが背景とみられます。フラビオ上院議員と支持率は伯仲しており混戦模様。両候補とも汚職問題などのスキャンダルで一時支持率を下げるなど、選挙情勢は依然として流動的です。

9月29日時点の決選投票に関する世論調査でも支持率は拮抗(図2)。第1回投票で敗れた候補者の支持層をいかに取り込むかが決選投票の趨勢を左右しそうです。

■ 決選投票は接戦、市場は右派勝利を好感か

市場は、高金利下での政府債務の安定化や中長期的な財政運営の行方に注目しています。右派のフラビオ氏は、歳出抑制や制度改革による財政再建と、民営化・規制緩和を通じた民間主導の成長を目指す経済政策を掲げており、同氏が勝利すれば金融市場も好感する見込みです。過去の大統領選挙前後においても、右派ジャイル・ボルソナロ氏が勝利した2018年に通貨高や長期金利低下(債券高)がみられました。一方、左派候補が勝利した2014年および2022年には、通貨安・長期金利上昇(債券安)の傾向がみられる局面もありました。

もっとも、フラビオ氏が当選したとしても、財政健全化への道のりは険しいでしょう。高金利環境下において、政府債務残高対GDP比を安定化させるためには、基礎的財政収支の大幅な黒字への転換が不可欠です。しかし、年金や社会保障などの義務的支出が政府歳出の大半を占めており、実効性のある歳出削減には議会の協力を得て制度改革を行うことが必要です。(簗輪)

【図1】 いずれの候補も単独過半数に到達せず、決選投票へ

ブラジル大統領選 第1回投票結果

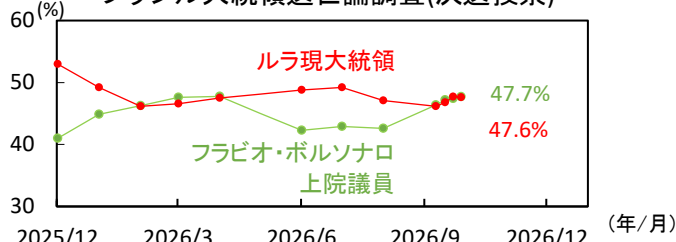
候補者	所属政党	得票率
フラビオ・ボルソナロ(上院議員)	自由党(PL)	47.05%
ルラ(現大統領)	労働者党(PT)	45.14%
カリー(精神科医、作家)	アバンテ党(AVANTE)	2.89%
サントス(ミッション党党首)	ミッション党(MISSÃO)	2.24%
その他候補者合計		2.68%

注) 開票率99.93%時点。

出所) ブラジル高等選挙裁判所より三菱UFJアセットマネジメント作成

【図2】 決選投票の世論調査は拮抗し予断を許さない状況

ブラジル大統領選世論調査(決選投票)

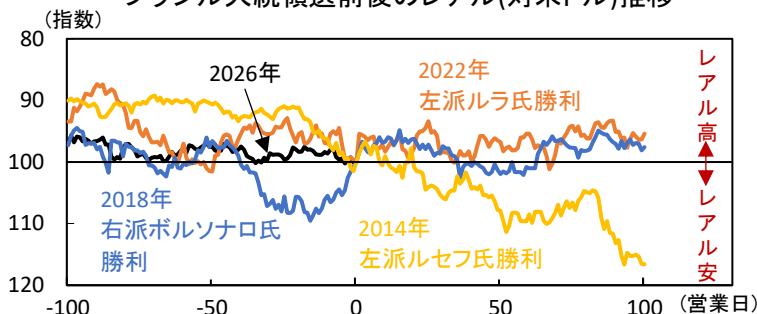


注) 直近値は2026年9月29日。

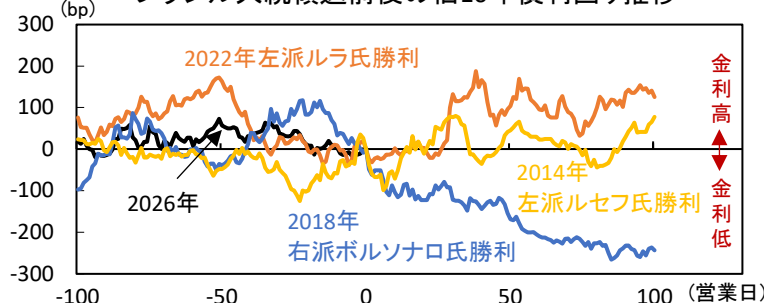
出所) AtlasIntel/Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図3】 過去の大統領選では、右派勝利を金融市場は好感

ブラジル大統領選前後のリアル(対米ドル)推移



ブラジル大統領選前後の10年債利回り推移



注) 為替は第1回投票日の前営業日を100として指数化。利回りは第1回投票日の前営業日を0として変化幅を表示。

2014年: 2014年5月16日～2015年2月20日。第1回投票は2014年10月5日。
2018年: 2018年5月18日～2019年2月22日。第1回投票は2018年10月7日。
2022年: 2022年5月13日～2023年2月17日。第1回投票は2022年10月2日。
2026年: 2026年5月15日～2026年10月2日。第1回投票は2026年10月4日。

出所) LSEGより三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会